

広報

土づくり



前向きに、明るく、楽しく

望月傑(もちづき すぐる)さんは十八歳の時、交通事故で遷延性意識障害になり、入院生活を経て二十六歳からご自宅で生活を始めました。現在、目覚ましい回復を遂げつつある望月さん。今回は、望月さんのお母様に、現在、そして未来についてお話を聞きました。

■在宅生活について

息子は十八歳で遷延性意識障害になり、八年間入院していました。一年ほど前に自宅に戻って、今は土屋さんに週三回、日中と夜勤の支援に入ってもらっています。週に二回はデイサービスに行つて、習字などのレクリエーションに参加しています。支援日以外は、私が夜中に二、三回起きて、吸引やおむつ替えをして、朝の五時まで介護を。その後は主人が、仕事に行く七時

■在宅になつて

半まで胃ろうなどの世話をします。そこから土屋さんが来る九時までは、主人と交代して、私が息子とコミュニケーションを取っています。家に戻ってきて、笑うようになりましたね。入院中、息子が笑うのを見たのは一、二回。けれど今は、思い出し笑いや、周りのみんなが冗談を言っているのを聞いて笑っています。

■足が動いた!

最近一番進歩があったのは、足を動かせたこと。リハビリの途中で右足が動いていたらしく、それで声掛けをしたんです。「足を動かしてみよって。すると、足を右に大きく動かしたんです。これは、とても珍しいこと

で、先生も初めて見たと言っていました。でもやっぱり動かすのって大変だと思っんです。だから声掛けをする時折は足を動かしますが、動かさそうとしている表情はいつも見えますね。ちゃんと聞いているんだなつて。

■想いが力に

〜足が動いた日にあつたこと〜

私と息子は、毎日一緒にNHKの朝ドラを見るんですけど、足が動いた日、すごくいいシーンだったんです。絶望的な気持ちだった人が彼女に助けられて、前向きに生きていこうというもので。その時、私も息子に言ったんです。「過去のことは仕方がないよ。だけど今から楽しく生きていこうよ。お母さんはあなたと一緒に暮らせることが夢だったんだよ。だから今から家族三人で、前を向いて生きていこう。お母さんはあなたと同じ景色が見たいんだよ」

すると、その日のリハビリで足が動いたんです。聞いていないようでも、心が聞いているんだと思いました。

■何よりもコミュニケーションを

土屋のヘルパーさん(アテンダント)で、この仕事が初めてなのに、とても良くやってくれている方がいます。息子が喜ぶことや好きなこと、いろんな発見をしてくれるんです。小さな気づきが多いんですね。それを私に教えてくれて、

それから一緒に考えていく。安心して任せられて、とてもありがたいです。意識障害だから分かっていないと思つている人は多いですが、そんなことないんです。ちゃんと聞いている。だからやっぱり、心が大切なんですよね。吸引やおむつ交換、リハビリも、もちろん大事ですけど、それは後のこと。

ヘルパーさんにはまず声掛けをして、「おはよう」とか、自分の生活のこととか、なんでもいいからコミュニケーションを取ってもらいたいんです。そうしたら息子も「こういう人なんだな」って認識したり、心が通じると思っんです。そこから新たな発見があつて、小さな気づきが回復につながっていくんです。

私のモットーは仕事は楽しく!ヘルパーさんにも、コミュニケーションを自分の喜びにして、それを仕事につなげていってほしいです。

☆望月傑さんってどんな人?☆

昔から友達がすごく多くて、毎日遊びに来ていました。常に周りに仲間がたくさんいて、音楽やスポーツ、車が大好きな子です。明るくて、よくムードメーカーと言われていました。入院中もみなさん来てくれましたね。

ものをぱつきりと言つ性格で、今もネガティブなことを言いながらリハビリやケアをする人には、一生懸命、身体に力を入れて、わざと動かないようにして抵抗したりします(笑)



プロフィール

氏名：望月 傑さん (27)
出身：福岡県在住
病名：遷延性意識障害
好きな音楽：BIGBANG

■「つつづつ、つつづつ」

在宅に入ってから、今年一年が経ちました。表情の変化も意思表示も多くなってきた。次のステップとして、今年は咽頭分離手術を考えています。気管と食道を分けて、誤嚥性肺炎にならないようにする手術をして、口から食事をとれるようにしたいです。私やヘルパーさんたちが食べ物の話をすると、聞いているんですよ。やっぱり食べるって人間の本能ですから、食べる喜びを味わってほしい。そのために今、噛む力を養おうと、ガーゼにくるんだキシリトールのガムを噛んでもらっています。あとは、一緒に同じ景色が見たいですね。ドライブに行きたいです。でも、行きたいじゃなくて、行こう！です(笑)周りが諦めたら、そこでおしまいです。だから諦めない。

▶マネージャーの田中雄二さんより

望月さん宅に伺うようになって、重度訪問介護に対する僕の気持ちも変わりました。仕事を始めた頃はいつも言われたばなしで怒られて。でも望月さんの現場に入ったら明るく、前向きになりました。そこから自分の考えが「どうせできない」「じゃなくて」「失敗しても学んでいるんだ」と、前向きに捉えられるようになって、マネージャーにまでなれました(笑)

きに、明るく、楽しくやっています。と思っています。

■「つくし会」NASVA

遷延性意識障害の家族会「つくし会」が九州で七年前に立ち上がりました。初めは大家族でしたが、今では七十家族になっています。遷延性意識障害になった方のご家族は情報もないし、どうしていいかが分からない。交通事故に遭って意識障害になられても、NASVA(独立行政法人自動車事故対策機構)を知らない人もいます。私は「つくし会」の役員になって、会長の渡邊さんや、会のつながりで今とても助かっています。

つくし会では専門家をお呼びして講演会や勉強会もしています。遷延性意識障害は、昔は植物人間と言われていましたが、意識に障害があるだけで、意識がないわけではないんです。だから「寝たきり」じゃない。あれは「寝かせきり」なんです。周りが勝手に寝かせているから、そうなっているんです。リハビリやコミュニケーションによって、意識は活性化していきます。



争奪 二次障害の予防は大切

「口元過前は週4日新幹線であちこちと仕事に出かけていた夫も、この2年間は家のパソコンの前に座ったきりの1日を過ごしています。その結果、筋力の衰えで体を支えるのも難しくなり、以前は膝立ちで少しづつ自分だけで移動出来ていたのが、後ろから抱える介助なしでは難しくなっていました。焦れば焦るほどうまく体が動かない脳性麻痺。トイレに行きたいときには必死の形相です。また座位が保てず姿勢が崩れてしまうので背骨が歪みます。何かトレーニングをと思っても、それがまた負担になって首の二次障害(頸椎症)を悪化させるのが怖くて鍼灸マッサージの先生に相談しました。今は、大き目のバランスボールにうつ伏せにもたれて乗る方法を教えて頂き、週2、3回やっています。これをやると背骨が伸びて調子が良いようです。今は「二次障害」という言葉をネットで見ると知る人も多いですが、自分の症状が其れであるという自覚のない人も居るそうです。元々の障害ではない症状が現れた時だけでなく、現れる前に知っておくことも予防や用心の為に大切かもしれません。そして、自分の体に合った介助をアテンドに伝えていくのも自分にはできないことです。我が夫のアテンドは妻の私です。今以上悪化させないように夫からの指示も細かくなっています。夫婦と言えど、その場その状況によっては完璧とはいきませんが、出来るだけの努力で症状の悪化を避けたいのです。 (こもとゆみこ)

■ご家族の方へのエール

自宅介護で看られている方は、皆さん、いろんなことがあると思うんですよ。けれど、前向きな気持ちをもってほしいし、ご自分の健康も大切だと思います。自分たちが満たされていなくて、絶対相手に伝わるので、まずは一人の人間として、介護に追われるのではなく、自分を大切にしながら介護してほしいです。大事にしてほしいです。



広報・土づくりへの

ご意見・ご感想

今後取り上げてほしいテーマなどをお聞かせください。また、株式会社土屋の取組みについてのご意見もお寄せください。

ご意見・お問い合わせ窓口
client@care-tsuchiya.com



株式会社 土屋

本社：岡山県井原市庵原町192番地2久安セントラルビル2階